

# 早稲田大学 国際教養学部 日本史 講評

## 〔総合分析〕

出題形式	マーク式
試験時間	60分
特徴・その他	早稲田らしい問題が多く、総じて簡単であった。

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	古代～近世の貨幣	早稲田ではわりと出題されやすい貨幣史の問題であった。難しかったのは問6である。室町時代に標準貨幣としてもっとも流通したのが永楽通宝だったため、その知識をもとに「明銭」を選んだ人が多かっただろう。しかし、「中世日本」と時代が広がってしまうと、宋銭の流通量の方が多いのである。単語として簡単であるため、このことを知らなかったことを悔やむ受験生が多いかもしれないが、実際には問3・4・8などの問題を消去法で解く知識があるかどうかの方が肝心であった。	やや易
	近世の外交	これまた早稲田では定番のテーマからの出題であった。問10を間違えた人は、文化史の用語にも時代順に気をつけなければならないものが存在することを知ってほしい。早大受験には必須の知識であった。この大問の中で解けないような問題は一つもない。	易
	近代の史料	問8を勘で正解できた人もいるだろう。その場合は全問正解が可能であった。早稲田では人々の権利を求める運動についての出題率が高いが、この大問では史料1以外にひねった出題は見あたらない。史料3などは設問に出典が書かれているのが、むしろ残念なくらいである。	やや易
	満州事変	国際教養学部特有の英文による史料問題だが、今回は「リットン報告書」であった。英語による空欄補充問題もないため、わりと解きやすかっただろう。難しいのは問2と問10で、消去法で選択肢をどれくらい絞り込めるかで正解率が変わってきた。	やや易

### 【難易度の表記について】

< 易 > 全問正解できる問題です

< やや易 > 1問を除いて、残りは正解できる問題です

< 標準 > 2問を除いて、残りは正解できる問題です

という具合になっています。